

理事長賞

水の大切さ

能美 咲

鞍手町立古月小学校

わたしは、社会科「水はどこから」の学習で、わたしたちが生活で使っている水には、たくさんの方の努力や工夫が詰まっているんだと知りました。今回、遠賀川下流浄化センターに社会科見学に行くことになって、わたしたちの使った水のゆくえについて、しっかり学んでいこうと思いました。

わたしは、浄化センターに行つて、初めて知ったことがたくさんあります。

一つ目は、この遠賀川下流浄化センターには、一日に約一万七千トンの下水が送られていることです。これは、学校の二十五メートルプールの約五十杯分になるそうです。このことを知って、わたしはとてもおどろきました。私は、そんなに水を使っている意識はなかったけど、町の人たち全員が使う量がこんなにも多くなるとは思ってもいませんでした。少し、もったいない気もしました。

二つ目は、下水道についてです。下水道には、みんなが家で使った水を浄化センターに送る污水管と、雨がふった水を直接川や海に送る雨水管の二つがあります。污水管のおかげで、においも気にならずに浄化センターまで汚水を送ることができるし、雨水管のおかげで、大雨の時でもすぐに町中水びたしにならなくてすむと分かりました。こんなところにも工夫があったことにおどろきました。

三つ目は、浄化センターの設備についてです。遠賀川下流浄化セン

ターでは、水をきれいにするために、五つの設備を使っていることが分かりました。しかし、わたしが一番おどろいたことは、水をきれいにするために、機械や薬だけではなく、「活性汚泥」という微生物を使っていたことです。

「活性汚泥」とは、水をきれいにしてくれる微生物です。大きさは、十分の一〜千分の一くらいの小さな生き物で、その小さな体でわたしたちの使った汚水の汚れを食べてくれるのだそうです。この「活性汚泥」には人と同じように空気が必要です。また、油がきらいだそうです。浄化センターの方は、この「活性汚泥」の状態をよく観察していつも元気でいるようにしています。水だけでなく、生物の管理もしていることにおどろいたし、大変だなあと思いました。

なぜ、浄化センターの方は、こんなに努力をして水をきれいにしているのでしょうか。それには、「水のじゅんかん」が深く関わっているのです。つまり、汚水をそのまま流してしまうと、わたしたちが使う水が汚くなってしまうのです。

これからは、「活性汚泥」がきれいな油は、そのままはい水こうに流さず、ティッシュなどでふき取ってから流したいと思います。歯みがきをする時も細めに水を止めようと思います。わたしができることは小さいかもしれませんがみんなが行動することで、大きな力になることを一万七千トンの水が教えてくれました。だから、わたしのできることから始めようと思います。